

第 14 回視覚障害者全国交流登山大会報告書

1. 大会実行委員長挨拶
2. 大会実施概要
3. 登山状況報告
4. 大会収支報告
5. 代表者会議
6. 反省会報告
7. 寄せられた感想
8. 第 15 回大会に向けて

作成日 平成 26 年 10 月 25 日

第 14 回視覚障害者全国交流登山大会実行委員会

1. 大会実行委員長挨拶

交流登山参加者はじめ多くのおみなさまの協力のおかげで、事故もなく、和気藹々と楽しめましたことに深く感謝申し上げます。

今回の交流登山は、はじめて東北の地で開催しました。関東からは少し遠く、下見などに時間と費用がかかりましたが、視覚障害者の人たちと登山をする団体が東日本に増えて欲しいという思いと、東日本大震災（原発事故）からの復興に少しでも力になりたいという思いで、福島県での実施を決断しました。

特別な理念などはなく、ただ、一緒に登山をする仲間と楽しみ、なつかしい人との出会いや初めての出会いに期待を寄せて、実行委員一同みんなで力を合わせてがんばってきました。

今回計画した二つの山はどちらも百名山で、他の登山者が多く、大混雑してしまい、磐梯山では山頂をあきらめなければならなかった団体もあったことを大変申し訳なく思います。もっと低山で登山者の少ない山を計画すべきだったかもしれませんが、磐梯山、安達太良山、そして五色沼を計画したのは、多くの人たちから愛されてきた山や自然をぜひ楽しんで欲しい、達成感も味わって欲しい、さらに遠くから貴重な時間とお金を使ってきていただくので、それに見合うだけのものを持ち帰っていただきたいという思いでした。

西日本のみなさんにとってはあまりに遠い山なので、参加人数は少ないだろうと思っていたのですが、当初270人を超える申し込みがありました。その後、キャンセルが相次ぎ人数が減ったものの、それでも最終的に251人（13団体のみ）の参加がありました。特に磐梯山と安達太良山の人気が高く、どちらも100人を超える参加申し込みとなりました。

多くの人が集まって登山するには、安全の確保が何よりも大切になります。今回、福島県山岳連盟を通じて、あだたら山の会、石城（いわき）山岳会、猪苗代山岳会から、安全登山のための支援をしていただき、大変助かりました。また、この大会を実施するには資金的な裏付けも必要です。今回、新潟あいゆー山の会の会員の方のお力添えで、富士ゼロックス端数クラブ、富士ゼロックス株式会社からそれぞれ多額の助成金をいただきました。山仲間アルプの会員数人から個人的に寄付もいただきました。全国から集まったみなさんに記念品を贈りたいという思いは、株式会社モンベルと赤城自然園（株式会社クレディセゾン）に協力していただきました。六つ星山の会からは、実行委員、登山のリーダーやサブリーダー、班長、ビデオ撮影、当日のお手伝いなど、さまざまな形で協力していただきました。

これら多くの方々のお力添えがあってはじめて交流登山を成功裡に終えることができました。厚く御礼申し上げます。

2. 大会実施概要

(1) 開催日程

2014年9月13日(土)～15日(月) 2泊3日

(2) 会場

国立磐梯青少年交流の家

所在地：〒969-3103 福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1

電話番号：0242-62-2530(代)

(3) 登山山域

今大会は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の影響で原発事故に苦しみ、今なお、自宅に戻ることでできない人たちが大勢いる福島県で開催しました。復興の支援などにはあまりに力不足ですが、どうせ山に登るなら、魅力的な山もたくさんある福島県で実施しようということになりました。

登った山は、ハードコースの磐梯山、一般コースの安達太良山、ソフトコースの五色沼から桧原湖の3コースです。磐梯山も安達太良山も、日本百名山に選ばれている有名な山で、遠くから来るみなさんにぜひ登っていただきたいと考えて、場所を選定しました。五色沼から桧原湖は、山ではありませんが、その美しさは2つの山に勝るとも劣らないものがあると確信し選定しました。

(4) 主催・協力・協賛

主催：第14回視覚障害者全国交流登山大会実行委員会(NPO法人山仲間アルプ)

協力：六つ星山の会、福島県山岳連盟、あだたら山の会、石城山岳会、猪苗代山岳会、杉妻芸能協会、富士ゼロックス端数クラブ、富士ゼロックス株式会社、

協賛：株式会社モンベル、赤城自然園(株式会社クレディセゾン)

(5) 大会参加者数

登山参加団体名（順不同）		人数	備考
1	六つ星山の会（東京都）	32名	
2	京都山の子会（京都府）	37名	
3	富山三つ星山の会（富山県）	27名	
4	岡山こまくさHC（岡山県）	21名	
5	山口ささゆり会（山口県）	20名	
6	歩く会「友遊」（広島県）	16名	
7	NPO 法人HC かざぐるま（大阪府）	18名	
8	新潟あいゆー山の会（新潟県）	15名	
9	山ネット（兵庫県）	12名	
10	ポレポレ山楽会（高知県）	11名	
11	しまね四季の学舎（島根県）	9名	
12	HC かめ2003（兵庫県）	2名	
13	NPO 法人山仲間アルプ（千葉県）	32名	赤城自然園の方2名含む
登山参加団体計		252名	
協力いただいた団体及び個人名（順不同）		人数	備考
1	福島県山岳連盟	3名	本部及び五色沼サポート
2	あだたら山の会	12名	安達太良山サポート
3	石城山岳会	12名	磐梯山サポート
4	猪苗代山岳会	3名	磐梯山サポート
5	杉妻芸能協会	16名	福島県の歌や踊り披露
6	ユータ氏（富山三つ星山岳会）	1名	ピアノ演奏
協力いただいた団体・個人計		47名	

3. 登山等状況報告

(1) 登山参加人数

- ・磐梯山 121名（視覚障害者 28名、晴眼者 78名、石城山岳会 12名、猪苗代山岳会 3名）
- ・安達太良山 126名（視覚障害者 33名、晴眼者 81名、あだたら山の会 12名）
- ・五色沼 33名（視覚障害者 9名、晴眼者 22名、福島県山岳連盟 2名）

(2) コース別登山状況

① 磐梯山

リーダー：相澤篤（山仲間アルプ） サブリーダー：町田清矩（六つ星山の会）

班長：中村浩子、杉野俊子、鳥海進太郎、茅原良一、梅田ちはる（以上山仲間アルプ）

赤石和秋、塩野圭子、秋山征二（以上六つ星山の会）

参加者が多く、山頂に立てない班が2班あった。怪我をした人はなく、全員無事に下山したが、最後の班は薄暗くなる直前の下山となった。

② 安達太良山

リーダー：八木原健一（六つ星山の会） サブリーダー：柴田秀男（六つ星山の会）
班長：柏樹節子、中村静子、小賀野信子、見神廣和（以上山仲間アルプ、高橋和佳子、佐藤誠二、松本克彦、高橋徳男、三谷博志（以上六つ星山の会）

脚力が弱いと思われる班から先にスタートした。登山道の混雑のため、時間制限を設けた表登山道分岐に制限時間ぎりぎりに着いた。7人が体力的にきつく先に下りた。最後の班がゴンドラに着いたのが 16:07 で、ゴンドラの最終運行時間ぎりぎりだった。

③ 五色沼

リーダー：山口雅章（山仲間アルプ） サブリーダー：田村 猛（六つ星山の会）
班長：中村和子、水野重之（以上山仲間アルプ）

五色沼は順調に歩き、落伍者なく裏磐梯高原駅に予定より1時間早く到着。車を止めて裏磐梯高原駅から逆行してきた福島県山岳連盟と富山三つ星の方と柳沼手前で合流する。桧原湖コースに入って吊り橋を過ぎたところで、前につんのめる方がいたので、サポートして歩行を継続する。吊り橋と裏磐梯高原駅中間地点で疲労困憊となったため、待機していたバスを裏磐梯休暇村バス停まで回してもらうことも考えたが、できるだけ最後まで歩こうと決めた。疲労していた方はサポーターと一緒にゆっくり来てもらったが、がんばって歩きみんなに追いついてきた。休暇村本館まで100mのところまで雨脚が強くなってきたので、15:00にバスに乗り、全行程を終了した。

(3) 登山以外の実施報告

実行委員会：網干勝（実行委員長・資料）、佐藤啓司（副実行委員長・安達太良山）、相澤篤（山行総括・磐梯山）、山口雅章（配車・五色沼）、水野重之（会計）、中村和子（イベント）、見神廣和（施設・調達）、中村浩子（施設・調達）、茅原良一（施設・調達）、箕輪俊男（施設・調達）、柏樹節子（資料）、小賀野信子（資料）、高橋とく（イベント）、朝木けい子（イベント）、深澤由美子（イベント）、松元梢（イベント）

【六つ星山の会から】新海吉治（安達太良山）、町田清矩（磐梯山）、田村猛（五色沼）

開会式：司会 朝木けい子、中村浩子

代表者会議：第6研修室で実施（次回以降の交流登山について検討）

班長会議：第6研修室で実施（2日目の登山についての注意事項確認）

団体紹介：司会 高橋とく

懇親会：ビューラウンジとラウンジで実施

親睦交流会：司会 中村和子

杉妻芸能協会のみなさんから多くの民謡や踊りなどを披露していただく。

富山三つ星山の会に所属する盲目のピアニスト YOUTA 氏にピアノ演奏を披露していただく。

自由交流：総合研修館で実施

閉会式：司会 栗谷川雅人

4. 大会収支報告

科 目		金額	構成比	備 考
収 入	参加費	2,601,130		大会参加費
	助成金	200,000		富士ゼロックス端数クラブ、富士ゼロックス
	個人寄付金	90,000		山仲間アルプ会員3名から
	宿泊代	25,420		杉妻芸能協会
収入合計		2,916,550	100%	
支 出	施設利用料	1,171,950		国立磐梯青少年交流の家（宿泊・食事）
	現地移動バス代	561,180		貸切バス、他団体バス（京都、岡山、富山）
	懇親会関係費	244,250		懇親会、自由交流会
	登山費用	361,050		ゴンドラ代、現地支援者車代、緊急用車移動費
	下見費	236,162		2回
	打合せ交通費等	125,249		実行委員会、協賛先訪問費
	事務費	34,722		事務用品、しおり・地図作製費、DVD代
	医薬品費	25,597		登山用・本部用
	打ち上げ費用	90,000		実行委員慰労会
	次回交流登山繰越金	69,552		歩く会「友遊」に引き継ぎ
支出合計		2,916,550	100%	

5. 代表者会議

代表者会議で次回の主催団体と、次々回の主催団体を決める予定だったが、次々回の主催団体は決まらず、次回への持ち越しとなった。

- ① 次回主催団体は、広島歩く会「友遊」に決定。
日程：平成28年3月4日（金）～6日（日）2泊3日
会場：宮島ホテルまこと（500人収容の大広間を有する宮島を代表する宿舎）
登山対象：弥山（標高535m）
費用：25,000円程度（2泊5食）
- ② 次々回は、次回から3年後とし、東日本の複数団体で協力し合っている方向とする。
次回、再検討し、結論を出す。
- ③ 交流登山の残金は、次の交流登山に活用することとする。

6. 反省会報告

実行委員11名が参加し、下記の反省点などが出された。

【磐梯山コース】

- ・班長はその班の団体から選んだ方がよい。他団体だと指示を出しにくい。 → 各班それぞれの団体の中でとりまとめ者を出してもらうように班長会議で決まったが、全員に行き届いていなかった可能性がある。事前に各団体にとりまとめを依頼しておいた方がよい。
- ・頂上を踏めなかった人がいたので、交流登山で登る山は低山が良いのではないか。
- ・各団体のサポート方法が違い、手伝えなかった。
- ・力量に大きな違いを感じた。
- ・参加人数が多すぎる。
- ・班はまとまっていた。
- ・他の登山者がいる中で、大人数でもスムーズに進行したと思う。
- ・人数制限が必要かも。
- ・班長と班の団体とりまとめ者がいて良かった。

【安達太良山】

- ・班長だけでなく、団体のとりまとめ者がいて良かった。
- ・安達太良山は足弱など体力的に心配と思われる班から出発したことが結果的に良かった。前日の班長会議で、この出発順番を説明しておいたので、スムーズにスタートできた。
- ・7人が先に降りた。
- ・ゴンドラに着いたのが16:07でぎりぎりだった。

- あだたら山の会の方の支援があって助かった。親切に配慮してくれた。
- 表登山口分岐に制限時間ぎりぎりの 11:20 に通過した。
- トランシーバーが先頭と最後尾でつながらなかった。あだたら山の会は、アマチュア無線で対応していた。
- サポート方法が違っていた。手をつなぎ合って登る団体の視覚障害者の人に、ザックに付けたロープにつかまって歩いてもらったら歩きやすいと言ってもらえた。
- 団体によって視覚障害者の登山レベルに大きな違いがあった。
- 救急セットは六つ星とアルプで両方あったが、人数が多かったので、複数あった方が良かった。六つ星は、急遽手配した。

【五色沼】

- 前半、後ろと連絡を取り合って休憩をした。前半は、1 時間早く裏磐梯高原駅に到着。
- 遅れた方は、一番最後を、両脇を抱えてもらって歩いた。
- 最終的に予定より 30 分早く着いた。
- 福島県山岳連盟の佐藤さんの車があって助かった。
- アルプと六つ星共同で運営したが、統制が取れて良かった。(アルプだけではまとめられなかった)
- 途中で歩けなくなり、座り込んだが、班長等に連絡しない団体もあった。
- 福島県山岳連盟の方は、福島県に来てくれてありがたいという姿勢だった。
- 全体を見るのは難しい。

【全体】

- 1 日目（開会式か団体紹介）に各コースのリーダー、サブリーダー、班長を紹介すべきだった。(サブリーダーがいることを理解していないように感じられる場面があった。)
- ヘルプデスクにほとんど人がいないので、効果なかった。受付の場所をヘルプデスクにした方が良かった。
- 2 日目の親睦交流会では、当日の山行報告や反省があっても良かった。
- 杉妻芸能協会の持ち時間が長く、YOUTA さんの持ち時間が短か過ぎると感じた。
- 各部屋に貼るラベル（団体名と人数を書いたもの）は、もっと大きい方が良かった。大きいとマグネットを使えた。また、セロテープが一巻きしかなくて貼るのに時間がかかった。
- 交流登山は、2 年ごとの実施は無理ではないか。公平に回るように小さな団体同士は一緒に幹事になって欲しい。
- 青少年交流の家のような施設は制約が多すぎる。ホテルなどでも良いのではないか。制約（食事の時間や入浴時間を自由に決められない。)
- 夜の行事は、イベントをしなくて、飲んで話しをする交流会だけで良いのではないか。
- イベントのマイクが聞こえづらかった。
- 登山装備が不足している人もいた。

- 弁当が余った。もっと少なくても良かったのではないかな？
- 自由交流会後の片付けなど、みんなが協力し合って早くかたづけることができた。
(他団体も協力してくれた)
- バスの采配がすばらしかった。
- 実行委員の人たちが結集していて良かった。
- 杉妻芸能協会のみなさんのボランティアでの清掃や福島県山岳連盟のみなさまが率先して手伝ってくださったことに感謝。

7. 寄せられた感想

【六つ星山の会から】

第14回視覚障害者全国交流登山大会の総括及び今後の取り組みについて

第14回視覚障害者全国交流登山大会が、主催者・NPO法人山仲間アルプ殿の多大な努力により、無事に成功裏に終了しましたことをお祝い申し上げますとともに、同じ関東の仲間として貴会に協力させてもらった当会も喜びを分かち合いたいと思います。今大会について、当会役員会で話し合いを行い、下記の様な成果・反省点及び今後の取り組みの方向性をまとめました。

については、この内容を今大会の総括及び今後の大会運営に反映させて頂ければ幸いですので、ご検討の程宜しくお願い致します。

記

1. 今大会の成果及び反省

- 1) 今回は全体の参加者数が多かった上、難易度の高い山行(磐梯山及び安達太良山)を選択する参加者が多く、ともすれば参加者の力量と難易度とのミスマッチと思える例が多かったと思います。特に、ハードコース(磐梯山)及び標準コース(安達太良山)においてその傾向が強く見られたと思います。
- 2) 大会実施要項で、「山行での視覚障害者サポート体制は、参加団体が各自責任を持つ。」としていました。しかし、いくつかの団体がこの原則を無視し、主催者にサポートの援助を申し出てきて山行の不安要素を大きくしたと思います。
- 3) さらにハードコース及び標準コースが人気の高い山で一般の登山者も多かったこと、さらに登山道が狭いことが原因となり、山行時間の大幅な遅延をまねき、その後のスケジュールを狂わせました。
- 4) 上記の様な困難な条件を抱えながら、山行リーダー、サブリーダー及び班長が責任を果たし、山行を成功させたことは賞賛されることと思います。また、福島山岳連盟の的確かつ積極的な支援にも支えられた側面が大きかったと思います。
- 5) 山行以外の運営は、事前準備が十分に生かされ順調に行われたと思います。
- 6) 上記を総合的にまとめると、以下の様な反省点が上げられると思います。

- (1) 参加者の満足度に重点をおいた山行先の選択をしたが、参加者の力量と難易度のミスマッチを招く要因にもなった。
- (2) 参加団体の中で、自己責任の原則を軽視し、主催者に過大な負担を強いていると思われると団体がいくつかあった。うがって考えると、主催者に継り自分の力量を無視し人気の高い山に登らせてもらうという意識があった様に思う。
- (3) 一般登山者が多くかつ登山道が狭いことによる混雑に対する対策が十分でなく、それにより山行時間の大幅な遅延及びそれ以降のスケジュールの狂いを生んだ。

2. 今後の取り組みについて

- 1) 大会の意義をもう一度見直す事が必要と思います。「視覚障害者と健常者が一緒に、安全にかつ容易に登山を楽しめる環境を整えて行く。」という共通の目標を持つ団体が集い、それを全国に広めて行く活動が本大会の理念になっていると考えますが、現在はお祭りの要素が強く理念が薄れているように感じられます。
- 2) 今大会での参加者数及び山行先を前提に考えると、主催者の負担（特に山行での負担）が膨大となり、単独の団体で主催する事が難しいと思います。その点から、山行先の難易度を下げる、或いは参加者数を制限するなどの対策が必要と思われます。
- 3) 上記2) 項に関連して、単独で主催できる団体に繰返し主催の機会が回ってきて過重負担となり、主催引受け手がなくなってしまいます。こうしたことの対策として、地域毎の数団体が共賛して開催する事により、負担を分散する必要があると思います。
- 4) 今後の大会運営の方針を検討・決定する場を設ける必要があると思います。全国交流大会の中で、代表者会議が設けられていますが、全体スケジュールの制約から短い時間の中で行わざるを得ず、内容も事務的に次回以降の開催団体を決めることに限定されてしまうと思います。
全国交流大会以外に、別途代表者会議を開くなどの方法を検討したらどうかと思います。メーリングリストを活用する方法もありますが、なかなか議論が噛み合わない或いは感情的になってしまう等の恐れもあるので、対面しての会議を開催する方法が良いと思います。
- 5) 当会も、視覚障害者全国交流登山大会を創設した当事者として、大会の開催が継続的かつ盛況に行われることを願っており、その為に相応の関与をして行くつもりですが、ほぼ4年に1回の主催又は共催を務めることは負担が大きすぎると考えています。

平成26年10月7日
六つ星山の会 代表 葛貫 重治
総務部長 新海 吉治

【山ネットから】

視覚障害者全国交流登山大会をふりかえって 山ネット 宗近 健児

宿舎のまえの広々とした広場で自由に歩いて朝の空気を深呼吸してジャンプして、磐梯山、安達太良山、猪苗代湖を適当に想像できるのがよかったですね。

朝夕の食事は仲間の手引きでいっしょのメニューをテーブルに運んでもらって、おしゃべりを向かい側の知らない仲間としながらおおぜいの中で食べるのも新鮮でいいものでした。

なんといってもお風呂ですね。温泉の流れる湯水の音や広々とした湯船のなかの湯気に包まれているのは最高の気分でした。

四人部屋でたたみの上に布団を敷き真新しいシーツを広げる気持ちよさもいいですね。初対面の仲間との出会いも楽しみでした。

タベの集いはバラエティーに富んだ出し物でわけのわかるどころもわけのわからないところもあって大変楽しい思いをさせてくれました。

交流会はやはりアルコールが入るとカラオケがあるので大いに盛り上がっていました。

こうした楽しい思いをさせてくれる主催者の運営にはいつも感心させられます。

代表者会議では次回開催は決まりましたが、その次がむずかしいようです。

私にはとても無理なので反省仕切りでした。

やはり私にはただの参加者でお祭りを楽しみ旅行気分を楽しむことでしょうか。

やっぱり今回も山が一番でした。

私は安達太良山に樂をしてロープウェイに乗っての登山でした。すぐに出てきた木道は段差も少なく幅広で大変歩きやすい道でした。しかもシャクナゲが延々と続くのもよかったですね。花の咲く初夏のころに訪れたいですね。

リンドウを教えてもらったときの感激と感触は忘れられませんね。秋に出会った瞬間でした。一足先に秋を感じるのがいいですね。小さな子供の声や行きかう登山者との挨拶など大変おおぜいの登山者のために待っている時間も多かったので疲れることなく歩きやすいやさしい山道で危険なところもなく歩けたので、また登ってみたい山でした。ただ私たちはおおぜいのため登頂をあきらめざるをえなかったのは心残りでした。

秋を満喫できた花の感触を楽しめる山でした。

【岡山こまくさHCから】

今回第14回の全国交流登山福島大会の成功をお祝申し上げます。

そして大きな感謝を申し上げます。ありがとうございました。

岡山・こまくさとして21名が参加させて頂きました。

遠方になりますのでアクセスには苦勞もありましたが名高い山で多くの仲間と登れる

こと、大会の意図に共感して当初の予定より多くが参加することになりました。

今回14団体と参加が増加であったことは今後の多くの課題を持っている中で明るい事実だと思います。

貴団体が地元ではない遠く離れた他県の山学関係団体や他の団体、組織との連携をとって組織を作り上げられたことに敬意を表します。

特に東北、福島での啓発被災、復興の共感を示すことができた意義は大きいと思います。

さて、山行では私は磐梯山でした。

多くの一般登山がある中で我々の大きな団体が登るので係りの方々はさぞご苦労が多かったことと思われます。

その中で予定の時間から大幅に遅れて来た時に登頂を続けるか折り返すべきかで悩まれたことでしょう。

その後スケジュールの支障が出る中で頂上に立たせようという熱意をもったの判断されたことをうれしく思いました。感謝です。

やはりこの多くの仲間と登頂できたことは大きな経験となりました。

さて、代表者会議で広島以後については難第山積で大きな課題となって来ております。今大回の総括、検証は貴重なものとなるでしょう。

それをぜひ公表して頂きたくお願い申し上げます。

また、私個人的には全盲ですのでテキストデータとしてメールで頂けることができれば大変うれしく思うところです。

できますればぜひよろしくお願い申し上げます。

実行委員の方々のお疲れが早くいやされますようにお祈りしております。

9月17日 こまくさハイキングクラブ 内田 収

岡山 こまくさの津島です。大変お世話になりました。さぞお疲れのことでしょう。肩の荷物が下りましたね。

岐路 長い車中で反省会がありましたが、好評でした。「登山で全員が無事故で下山できれば、7割成功」と言いましたがあれだけの人数ですから、想定外のこともあります。無事故が何よりです。今回の全国大会を契機にアルプは結束が強くなり、ますます発展していくことをお祈りいたします。

岡山こまくさHC 津島 勝洋

【新潟あいゆー山の会から】

全国交流登山の感想

新潟あいゆー山の会 事務局 霜島弘道

第14回視覚障害者全国交流登山大会ではお世話になりました。2年に1回しか会えない各会の仲間と会えて懐かしさでいっぱいでした。

大会を主催された「山仲間アルプ」をはじめ地元の山岳会、側面から支援をいただいた団体に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今回の交流登山へ私たち新潟あいゆー山の会からは、15名が参加しました。交流の家には、JRを利用者5名、乗用車で分乗で10名で向かいました。大会前に富山三つ星山の会から、大会終了後市内観光を兼ねて交流をしようとの申し出もあり、二重の楽しみになりました。

会場の国立磐梯青少年交流の家は、北に磐梯山、南に猪苗代湖を望める風光明媚な高台に建つ大きな施設でした。最初大きな施設に戸惑いもありました。また、大会中は満室とのことで人気の高さが伺えました。当会から、盲導犬2頭も参加することによって、宿泊棟も配慮していただき、快適な3日を過ごすことが出来ました。

代表者会議で次回の第15回開催地も決まりましたが、その次の開催地は持ち越しになりました。会議にも話がありましたが各会に深刻な問題も抱えている現状に大きな回り角と感じました。当会としては、地域に特化したスモール交流大会へのシフトと考えています。

当会からは、3コースとも参加しました。磐梯山コースでは、後尾の班が登頂出来なかったのが残念ですが、あの混雑化では仕方がなかったでしょう。私は磐梯山に登りましたが、後日の御嶽山の惨劇を見ると複雑な思いでいます。安達太良山コースでは、当会の参加者が回りの多くの支援を受けて登頂できたことを喜んでいました。五色沼コースでは、地元の山岳会の説明と支援で快適だったとの報告を受けました。

両日の交流会では、身近な人たちと交流を深めることが出来ましたが、当会の目の不自由な会員からは、移動の制限や会場の音量から交流への参加の困難さも聞きました。これは常に感じていたのですが、交流登山の課題と考えました。

大会が閉会し各会の見送りをしてから、富山三つ星山の会のマイクロバスと乗用車に分乗した当会と一緒に行動しました。まず猪苗代湖での遊覧では、穏やかな湖面からの磐梯山の展望も素敵でした。ついウツラウツラも。次に野口英世記念館ですが、久しぶりにマジで見学しました（いつもはほろ酔いで?）。

昼食は向かいのビール館でした。地ビールをいただきながら美味しい昼食をいただきました。アシストをいただいた富山の皆様ありがとうございました。昼食後私たちは富山の方たちと別れたのち、乗用車ごとに解散して家路に向かいました。

【歩く会「友遊」から】

大会の報告と感想 歩く会「友遊」

1日目（受付、代表者会議、懇親会）

○猪苗代駅に到着した時、何の表示もなく誰も迎えに来てなかった。送迎バスと一緒にスタッフが現れた。他にも参加団体がいたが、どうしていいのかわからずそこで待つて

いた。

○誰がスタッフなのかわからず、誰に聞けばいいのか困った。

○食事…まずかった。あんなものだろう。そんなに悪くはなかった。と人によってバラバラ。

○受付のスタッフ数が少なく、部屋にたどりつくまでに時間がかかった。部屋割りは女性5人が3人と2人に分かれていた。同室になった視障者とはあまり話せなかった。晴眼者とは話した。同じグループでかたまっていた。男性も、別部屋になっていたが、他県の人と話しができて良かったとの感想もあった。

○懇親会では20団体くらいの自団体紹介がダラダラと長く続いた。1団体に3分の制限は守られず。

2日目（登山、全体交流会）

○連休だったせいか、一般人登山客が沢山いた。

○登山ボランティアや班長に自分の役割をよく把握していない人や下見にも行ったことのない人が付いていた。

○登山道で一般人とすれ違うのに、その度にいちいち止まり、やり過ぎたため時間がかかり、頂上に登りきれない人もいた。登るより待つ時間のほうが長かった。そのためリズムが狂いかえって疲れた。安全のための対処だったのだろうが、視障者に過保護すぎるように思った。山の頂上が狭く、人の入れ替えで上がるのに時間がかかった。磐梯山からの下山は、あと数時間でヘッドライトが必要になるくらいだった。

○安達太良山コースは最後の班が、ゴンドラの最後の便に乗れるかどうかという時間まで遅れていた。班長が班をまとめられず、早い人と遅い人でバラバラになった。班長がゴンドラの手ケットをまとめて持っていたため、長い時間待った。

○磐梯山登山の始めの約束事、「弘法清水に12時半までに着かなかったら登山は断念する」に10数分遅れた。体力的に難しかったわけではなく、離合の待ち合わせで時間を取ったため、迷ったが頂上に向かった。班にサポートの付く視障者が自分一人だったため、踏頂しないと他の人の経験にならないとも思った。付いていたスタッフにも、せっかくここまで来たのだから登らせてあげたいという気持ちがあったか、引き止めはなかった。結果的には下山出来たがやはり始めの約束を守るべきだった。

○全体交流会では、ピアノ演奏や郷土芸能の踊りなどが披露された。視障者にはわかりにくかった。自分たちのグループでかたまって座った。他県の人との交流はあまり取らなかった。

8. 第15回大会に向けて

今回の第14回大会では、前回の第13回大会で申し出ていただいた広島の歩く会「友遊」が、次の第15回大会の主催団体として決定しました。報告書の代表者会議の項目にも記載したように、平成28年3月4日（金）～6日（日）に宮島の弥山で実施されることに

なりました。歩く会「友遊」のみなさま、引き受けていただけたことに深く感謝申し上げます。また、多くの仲間が集まって、再会や新しい出会いがあることを楽しみにしています。

しかし、今回は、次々回の第16回大会の主催団体が明確には決まりませんでした。決まったことは、第15回大会の3年後に、東日本の複数の団体が協力して実施しようということだけでした。

なかなか、「うちが引き受ける」と言えないのは、交流登山をまとめることの負担の大きさ、各団体の高齢化、人数が多すぎるなどの理由からでした。今後の交流登山のあり方について、真剣に意見交換する必要があるそうです。六つ星山の会から寄せていただいた意見にもあるように、交流登山の際の代表者会議では時間的制約があって、しっかりと議論することが難しく、別に議論する時間を作る必要があるのではないかと思います。

どちらにしても、これまでと同じ方法では限界があるので、一部修正か抜本の見直しか、考えを持ち寄ってみんなで考えたいと思います。

参考までにこれまでに寄せられた修正案などをまとめてみましたので、一つの参考にしてください。

1. 大会の間隔を空ける。例2年ごと → 3年ごと
2. 小規模な大会とする。(各団体からの参加人数に制限を設ける。東と西で分ける。各団体から数人の代表者が集まって交流を行う等)
3. 大々的な交流登山は廃止して、2団体もしくは数団体が交流できる登山を実施する。(A団体が計画している登山に参加しませんかとB団体、C団体に呼びかける等)
4. 複数の団体が協力して主催する。

以上